

自動車アセスメント事業の現状と課題

令和7年度(2025)第1回自動車アセスメント評価検討会 資料4

○自動車アセスメント事業は

- ・ ユーザーがより安全な自動車を選ぶことができるよう「自動車安全性能」を評価し、公表。
- ・ メーカーによる安全な自動車の開発を促進することによって、より安全な自動車の普及を促進し、交通事故削減に貢献。

→ 交通事故の更なる削減に向けて、安全な自動車普及のための好循環を加速させるために、「評価のあり方」や「ユーザーの認知度の向上」等について検討が必要。



検討課題		主な意見
1. JNCAPの理念・哲学の共有		・JNCAPの理念・哲学が、関係者間で共有されている必要がある。 ・WG間の連携が不足。検討会・各WG座長間で議論できる場があるとよい。
2. 評価のあり方		・アセスが第二の基準と化しており、合否判定(5★かそれ以外か)が目的となった結果、車種ごとの差がなくなり、ユーザーの興味を惹けていないのではないか。 ・試験・評価方法の策定にあたっては、交通研やJARIの関与を増やすとともに、業界の平均的な意見より、個社の意見を積極的に取り入れてはどうか。 ・今の技術で出来る/出来ないにかかわらず、将来を見据えた到達点として目標を定め、技術が向上するごとに徐々に得点が上がっていくように見せてはどうか。 ・ロードマップ策定時に技術的にどこまで目指すか(シナリオ、評価方法等)を明確にすべきではないか。 ・将来の市場の状況を想定した評価が必要ではないか。 ・今の事故実態に沿った損失額の算出とそれに基づく評価が必要ではないか。 ・高評価を継続的に得ることがメーカーの技術開発のモチベーションとなっており、引き続き、業界全体の底上げを図るため、官民双方の意見をよく取り入れた上で取組みを進めることが重要。 ・アセスはユーザーにとっては数ある購入指標の1つであり、無理に差をつける必要はないのではないか。 ・予防安全について評価の公平性を担保することが重要。
	3. その他の試験の課題等	・試験項目の多様化による負担増(試験工数、試験費用)を低減するため、実試験は残しつつも、バーチャルテストの活用を検討してはどうか。 ・事故の実態に即した予防安全性能と衝突安全性能を組み合わせた試験の検討が必要ではないか。 ・その他の課題(ジェンダード・イノベーション、V2X等)への対応。
4. ユーザーの認知度向上		・SNSの活用戦略の構築(時流に即した、媒体やコンテンツ、発信頻度・タイミング等を検討・アップデート)。 ・最初に車を購入する、家族の安全を考えている層に重点的にアプローチ。 ・広報・取材においてナスバ・委員・メーカーが連携して対応できるとよいのではないか。 ・ユーザーに訴求するために補助金等と紐づけることができるとよいのではないか。